

第3回（1月） 会議録（主な意見）

○越前市岡本公民館を視察したことがあるが、青年たちが地域活動に関わるきっかけとして、地区新成人の集いにおける企画を青年たちに自由に考えさせ、主体的な活動となるように支援していることが印象に残っている。

○活動によって徒労感や疲労感を感じることもあるだろうが、それを超える団体活動の価値をいかに見せるかが大切である。そこにつながる学び、成長があることを示す組織や活動の見せ方、在り方等を検討することも団体には期待されるのではないか。

○地区ごとにあるグループをまとめることで大きな力となるが、能登町青年会議のように「町を良くしたい」という一致点に基づいていろいろなところで連携の輪を広げていくことが有効であると感じた。

○若い人たちが地元に戻ってきたくれないと団体のメンバー不足になる。能登町では、高校生に対して地域を学ぶ機会を設けており、地元に対する愛着を醸成することを通じて、地元へのUターンを促進したいと考えている。

○地域にとって大切な伝統文化を守るのであれば、特定の団体に任せるのではなく、地域全体で協力体制を整えることが現実的ではないか。そうした体制の中で団体活動も活性化する。

○地域に多くの団体が存在する中、行政主導で団体の整理統合や連携体制の構築を図っていくことも考えられる。

○地域について学ぶことを通して、地域に愛着を持つことはとても大切なことであり、地域づくりにつながる取組である。

○地域や社会教育関係団体の活性化に向け、市町単位で協議し取組を具体化していくことも必要なのではないか。